

東京スカイツリーの開業に伴う防犯対策 (最新の防犯カメラ設置)

墨田区総務部危機管理担当統括課長 副参事 清水 克修 氏

1. 墨田区における防犯対策

墨田区の概要についてですが、墨田区は東京都の中心部の東方に位置し、面積は13.75平方kmで23区中17位です。人口は25万1,182人で23区中16位です。主要路線は水戸街道（国道6号線）、明治通り、浅草通りです。主要鉄道として私鉄4路線（13駅）、地下鉄2路線（4駅）があります。警察署は本所警察署と向島警察署の2署があります。

防犯対策の基本的な考え方は、防犯対策を効果的に推進し、安全で安心な街の実現を目指すためには、自治体、警察、地域住民、事業者が相互に連携し、かつ、協働して各種の防犯対策を推進することが重要です。墨田区では、安全で安心な区民生活の実現に向け、平成18年1月1日に「墨田区安全で安心なまちづくり推進条例」を施行し、東京都、警察、地域住民、事業者等の成すべき責務を定め、これらの相互連携による各種の防犯対策を推進しています。墨田区安全で安心なまちづくり推進条例では、効果的な防犯対策を実践するため、防犯意識に関する意識の啓発や防犯に関する自主的な活動に対する支援等の事項を規定しています。

2. 墨田区における街頭防犯カメラの現状と設置効果

① 街頭防犯カメラの整備事業

墨田区では、「墨田区安全で安心なまちづくり推進条例」第3条に規定されている「安全で安心な地域社会を形成するための環境の整備」を効果的に推進するため、東京都、警察、地域住民、事業者と協働し、街頭防犯カメラの整備事業を推進しています。街頭防犯カメラ整備事業に関する基本的な考え方は、自治体の助成事業の効果的な活用促進、高スペック・高精細カメラの設置推進、表示板・表示幕の効果的な設置推進、地域住民等のプライバシーに配慮した運用の4つです。

助成事業の推進と活用として、墨田区では、防犯カメラの設置助成を積極的に推進し、併せて助成制度の活用を働きかけています。なお、助成を受ける



前提として、防犯カメラの設置を推進する町会・自治会等の地域が、墨田区の「安全安心まちづくり推進地区」に指定されていることが条件となり、推進地区の指定は、地域の犯罪発生件数が他の地域より多いなど、一定の要件を勘案して墨田区が指定し、東京都に届け出ることにより、区の推進地区に認定されることとなります。

助成事業の具体例は、地域連携治安改善サポート事業（東京都の地域における見守り活動支援）があります。これは、墨田区の安全安心まちづくり推進地区に指定された町会、自治会、商店街の複数が構成された地域団体や協議会が防犯カメラ（モニター・録画装置を含む）を設置する場合、750万円を上限に、総経費の6分の5（東京都2分の1、墨田区3分の1）を補助しています。ただし、都の補助が認められない場合は、区の補助も認められないことになります。また、商店街及び商店街の連合会が防犯カメラ（モニター・録画装置を含む）を設置する場合は、300万円を上限に総経費の3分の2（東京都3分の1、墨田区3分の1）を補助しています。ただし、地域見守り活動支援事業との併用は不可であるほか、都の補助が認められない場合は、区の補助も認められないことになります。この他にも墨田区独自の事業として助成事業として電気料金や保守メンテナンス料等を補助しています。

高スペック・高精細型カメラの設置として、事件発生時における犯人の早期検挙に資するため、補助

金を受けて設置していただく防犯カメラは、130万画素以上のメガピクセルカメラを推奨しています。また、防犯カメラを効果的に運用するため、防犯カメラ設置地区内の電柱、街路灯等に防犯カメラを設置している旨の表示板や表示幕の掲示を推奨しています。

地域住民等のプライバシーに配慮した運用を行うため、「墨田区防犯カメラの設置及び運用に関する要綱」に基づき、墨田区が管理する街頭防犯カメラについては「防犯カメラ管理運用規約」、また、町会、自治会、商店街等が管理する街頭防犯カメラについては「防犯カメラ管理運用基準」を定めて、管理責任者の設置と遵守事項、映像データの保管と閲覧要領、映像データの外部提供に関する制限の事項を規定し、防犯カメラの厳格な運用を行っています。地域住民のプライバシーに配慮した運用を行うため、防犯カメラの持つ「プライバシーマスク機能」を活用し、住宅内部の撮影制限、商店等の看板の撮影制限を行っています。

② 墨田区内における街頭防犯カメラの現状

墨田区内における街頭防犯カメラ設置事業は、平成15年から進められており、これまで9地区（カメラ計205台）に整備されています。今後は、今年度中に、新たに1地区に整備する計画で各種の設置作業を推進しています。

③ 防犯カメラの設置効果

カメラ本来の機能を活かした「一次効果」として、犯罪企図者への威嚇による犯罪の抑止、防犯カメラの映像の活用による犯人の検挙、犯人の検挙による第2・第3の犯罪の発生防止、飲食店従業員等による客引きや宣伝行為の自粛による環境の浄化があげられます。

カメラの一次効果から派生する「二次効果」として、地域住民の方々への安全・安心感の醸成と体感治安の改善、地域住民の方々の防犯意識の高揚、地域住民の方々の規範意識とマナーの向上、安全で安心な地域環境から享受される地域振興、街の活性化が考えられます。

④ 防犯カメラの設置効果向上対策

町会や商店会等では、「一次効果」及び「二次効果」により、地域住民の方々が、安全で安心して暮らせる街づくりを推進するとともに、にぎやかで活気のある街づくりを目指そうという運動が、以前にも増して活発化してきています。街頭防犯カメラを

効果的に運用するため、防犯カメラの設置といったハード面の対策以外に、警察、自治体、地域住民等の三者連携による防犯パトロール、防犯キャンペーンなど、ソフト面での対策を積極的に推進し、ハード面とソフト面の対策の連動により、街頭防犯カメラの効果をより向上させようという動きが目立ってきています。

3. 東京スカイツリー周辺地域における防犯対策

東京スカイツリーの開業は本年5月22日です。高さ634mと、自立式電波塔として世界一の高さを誇る東京スカイツリーが開業となり、同時に飲食や買い物などが楽しめる商業施設の東京ソラマチ（312店舗）もオープンし、「すみだ水族館」や「プラネタリウム・天空」を備えた大規模レジャーゾーンの東京スカイツリータウンが誕生し、連日、多くの来訪者や観光客でにぎわっています。

(1) 街頭防犯カメラの設置

① 東京スカイツリー周辺地区 街頭防犯カメラ設置に至る経緯

東京スカイツリー周辺地区においては、スカイツリーの開業にあたって、多数の観光客の到来が予想されたことから、周辺地区における治安対策、防犯対策、マナー向上対策を効果的に推進する目的で、平成23年5月に墨田区、警察、町会、自治会、商店街、スカイツリー運営会社で構成する「東京スカイツリー周辺地区安全安心推進協議会」を設置しています。東京スカイツリー周辺地区の街頭防犯カメラの設置・管理の主体は、「東京スカイツリー周辺地区安全安心推進協議会」となっており、墨田区は、協議会への支援を継続的に行っています。

② 東京スカイツリー周辺地区で発生が懸念される各種犯罪

東京スカイツリー周辺地区では、スカイツリーや観光客を狙ったテロ事件、観光客や地域住民を狙った通り魔事件・置き引き事件・スリ事件、周辺居住地への住居侵入事件、周辺建物や構造物への器物損壊事件、周辺道路での交通違反事件、少年による深夜徘徊等の補導等案、等の犯罪の発生が懸念されています。

③ 東京スカイツリー周辺地区で発生している迷惑行為

東京スカイツリー周辺地区では、観光客、来訪者によるゴミの置き去り、深夜の騒音、自転車の放置、道路不正使用による路上販売、カヌーやカヤックによる河川フェンスへの違法係留事案等、このようなルール違反やマナー違反による迷惑行為が発生しています。

④ 東京スカイツリー周辺地区 街頭防犯カメラの設置スタンス

墨田区では、東京スカイツリー周辺地区における街頭防犯カメラの設置推進にあたり、東京スカイツリー周辺地区安全安心推進協議会を含む、町会、商店街等に対して、防犯カメラは、撮影した映像が犯罪捜査に効果的に活用されるよう、130万画素以上のメガピクセルカメラを使用する。防犯カメラの設置場所、撮影方向、画角は周囲の犯罪発生状況にあわせて効果的に選定する。撮影した映像は、1週間以上保存する。プライバシーに配慮した運用を行う。ことを基本的なスタンスとして指導しています。

⑤ 東京スカイツリー周辺地区 街頭防犯カメラの設置管理主体

現在、東京スカイツリー周辺地区には、設置主体による街頭防犯カメラが、墨田区12台、東京スカイツリー周辺地区安全安心推進協議会54台、近隣地区(町会・商店街) 11台の計77台設置されています。

⑥ 東京スカイツリー周辺地区 街頭防犯カメラの特徴

東京スカイツリー周辺に墨田区、町会、商店街が「街区」単位でネットワークカメラを設置、更に、東京スカイツリーを取り囲むように各街区が集合体を組み、地域ネットワークを構築しています。街頭防犯カメラは、東京スカイツリー周辺地区における犯罪企図者(車)の侵入と各種犯罪の発生を想定した設置がなされています。

従って、防犯カメラは、東京スカイツリー周辺地区への犯罪企図者(車)侵入時や犯罪発生時において、何れかのカメラ1台以上が、確実に犯罪企図者(車)、犯罪者(車)を捕捉撮影することが出来るよう配置場所や撮影方向、画角の調整がなされています。犯罪情勢にあわせた効果的な運用と犯罪企図者(車)、犯罪者(車)を確実に捕捉撮影するため、個々のカメラの設置物件は、東京電力の電柱、区・商店街の街路灯、各種ビルの壁面、各種の支柱、警察の信号柱・標識柱、防犯カメラ独自の自立柱と多彩です。

また、東京スカイツリー周辺地区には、高スペック型・高精細型のネットワークカメラを設置しており、街頭防犯カメラには、24時間録画、保存期間は1週間(上書き保存)の大容量の録画装置を設置しています。

防犯カメラを効果的に運用する目的で、スカイツリー、墨田川の花火・桜を図案に取り入れた表示幕(日本語・中国語・韓国語・英語)」を作成し、電柱や街路灯等に掲示しています。

(2)「すみだ防犯センター」の開設

① 主な機能・活動内容

すみだ防犯センターは、平成24年4月1日から運用開始し、祝日・年末年始を含む年中無休 午前9時から午後の開設です。

主な機能は、管轄警察署の警察官立寄り所、各種の情報発信拠点、委託警備員の詰所、街頭防犯カメラ(4台)の設置施設であり、活動内容としては、スカイツリー周辺地域の防犯パトロール、遺失物・拾得物の一時的な取扱い、事件・事故の一時的な取扱い、地域住民からの各種相談の受理、来訪者・観光客への地理案内・観光案内等です。

4月1日から7月31日までの4ヶ月間の取扱い状況は、地理案内1,439件、相談受理46件、拾得物の取扱い14件、保護取扱い5件、交通事故一時取扱い6件、事件一時取扱い6件、管轄警察署への通報12件となっております。

② 勤務体制

すみだ防犯センターは、以下の職員で運用されています。非常勤職員(警察官OB)3名は、墨田区内に所在する本所警察署・向島警察署での勤務を最後に退職した警察官OB3名が、交代制勤務で各種活動に従事しています。臨時職員の4名は、英語、ドイツ語の会話に堪能な警察官OBや現役の大学生等を臨時職員として配置し、外国人観光客の対応にあたっています。

③ 今後の方針

墨田区では、東京スカイツリー周辺地区の街頭防犯カメラの管理運用と「すみだ防犯センター」の運用とを効果的に連動させることで、スカイツリー周辺地区の総合的な治安対策や、防犯対策に効果を発揮すると考えています。従って、今後は、スカイツリー周辺地区の各種対策を推進するため、街頭防犯カメラの設置効や「すみだ防犯センター」の運用効果を検証しつつ、カメラの増設・移設・撤去を含めたカメラの設置検討と「すみだ防犯センター」の活動内容の検討を継続的に実施することにしています。

最後になりますが、防犯設備士の皆さんに期待することとして、セキュリティのプロとしての活動、自治体や警察との連携、高い倫理観に基づく活動等が挙げられます。皆様の今後のご活躍を祈念いたしまして、本日の講演とさせていただきます。ありがとうございました。